



2005年度実験実績等



実験期間	実施機関	実験内容
2006年 3月10日～18日	東海大学学生ロケットプロジェクト	<p>当町での打上げは3回目となるハイブリッドロケットの打上げ実験。今回は7号機と8号機の2機を打ち上げる計画、7号機は14日午後5時過ぎ、轟音とともに見事に打ちあがりました。16日に打上げようとした8号機は点火の不具合が解消せず、今回は打上げませんでした。</p>   
2006年 2月13日～14日	宇宙航空研究開発機構(JAXA)総合技術研究本部将来宇宙輸送系研究センター	<p>発泡スチロールなどで造られた飛翔体模型を高所から滑空させ、飛行安定と舵の効果を確認するため、飛行船格納庫内で実験した。</p> 
2005年 10月28日～11月2日	独立行政法人産業技術総合研究所地圏資源環境研究部門	<p>屋外での変動する気象状態によって騒音伝搬も変化するので、夜明け・日中・夕暮れの時間帯にスピーカから発する騒音を測定しデータを取得。</p>    
2005年 10月23日～10月26日	名城大学(名古屋市)理工学部	<p>スピーカから発せられる騒音を距離を変えた位置のマイクロホンで測定し、環境の変化による減衰の違いなどのデータを取得しました。</p>  

		
<p>2005年 10月16日～10月29日</p>	<p>宇宙航空研究開発機構(JAXA)総合技術研究本部飛行システム技術開発センター</p>	<p>低騒音飛行方式の開発のため、ヘリコプタの騒音データを取得。地上のほかクレーンにマイクを設置、反響の少ない環境でデータ取得が行われました。</p> 
<p>2005年 9月26日～10月6日</p>	<p>宇宙航空研究開発機構(JAXA)総合技術研究本部飛行試験技術開発センター 航空安全技術開発センター</p>	<p>NOCTARN運行方式の評価(適応型飛行経路を用いた次世代運行方式の研究)が、JAXA所有の多目的実証実験機MuPALアルファ(ドルニエ機)とMuPALイプシロン(MH2000)を用いて実施されました。2機を同時に飛行させての実験は昨年に続いて2回目、今回は飛行船格納庫、飛行管制棟も利用して実施されました。</p> 
<p>2005年 9月19日～9月23日</p>	<p>宇宙航空研究開発機構(JAXA)総合技術研究本部飛行試験技術開発センター 海上技術安全研究所ほか</p>	<p>昨年5回実施した多目的無人機の飛行実験、今年は初めての来場です。無人機に搭載したカメラから地上局に映像を送るシステムの実験が繰り返されました。</p>



2005年
8月11日～8月21日

トライククラブ空界

トライククラブ空界(藤丸昌樹代表、東京)のメンバー4名は、トライクという超軽量動力機を持ち込み、フライトをしました。藤丸代表は、8年前から多目的航空公園を利用して、大樹町の魅力を発信してくれています。



2005年
5月13日～5月
26日

宇宙航空研究開発機構(JAXA)総合技術研究本部飛行試験技術開発センター
航空安全技術開発センター

JAXA多目的実証実験機MuPAL-イブシロン(三菱ヘリコプターMH2000)を用いて離着陸時の騒音についての研究のため、地面から反射音が少なくなるように集音マイクをクレーンで地上35メートルに吊り上げ、ヘリコプターをホバリングさせて騒音を測定しました。
また、飛行中の騒音を測定するため飛行経路に沿って測定器を設置、各種のデータを取得しました。



